

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名：商業販売統計(2014年9月)

発表日：2014年10月28日(火)

～幅広い項目で改善。良好な結果～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 副主任エコノミスト 高橋 大輝

T E L : 03-5221-4524

(単位: %)

		商業販売額		卸売業		小売業		大型小売店		百貨店	スーパー	コンビニ 販売額
		前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	既存店 前年比	既存店 前年比	既存店 前年比	既存店 前年比
2013	9月	2.8	0.9	2.7	0.4	3.0	1.0	1.7	0.7	3.0	▲ 0.4	▲ 1.6
	10月	2.0	0.3	1.8	0.3	2.4	▲ 0.3	0.8	▲ 0.1	▲ 0.4	0.0	▲ 0.9
	11月	2.9	0.7	2.4	1.2	4.1	1.1	1.2	0.6	2.6	▲ 0.6	0.4
	12月	2.8	▲ 0.1	2.9	▲ 0.3	2.5	▲ 0.6	0.9	0.2	1.9	▲ 0.9	▲ 0.3
2014	1月	4.4	2.2	4.4	2.6	4.4	1.6	0.7	0.0	3.3	▲ 1.8	▲ 0.1
	2月	2.5	▲ 1.5	2.0	▲ 2.1	3.6	0.3	2.4	1.3	2.9	0.6	0.9
	3月	8.5	5.6	7.5	5.3	11.0	6.4	17.0	16.1	25.2	11.1	2.8
	4月	▲ 3.4	▲ 10.3	▲ 3.0	▲ 9.7	▲ 4.3	▲ 13.6	▲ 6.1	▲ 6.7	▲ 10.0	▲ 5.1	▲ 0.3
	5月	▲ 1.0	3.1	▲ 1.3	3.1	▲ 0.4	4.6	▲ 0.5	▲ 1.2	▲ 2.1	▲ 0.8	1.3
	6月	▲ 0.6	▲ 0.6	▲ 0.5	▲ 1.1	▲ 0.6	0.5	▲ 1.2	▲ 1.8	▲ 2.4	▲ 1.5	0.2
	7月	0.1	1.0	▲ 0.1	1.0	0.6	▲ 0.5	0.3	▲ 0.6	▲ 0.4	▲ 0.7	0.8
	8月	▲ 1.6	▲ 1.9	▲ 2.8	▲ 1.7	1.2	1.9	2.8	1.6	2.0	1.4	▲ 0.3
	9月	1.5	4.0	1.2	2.7	2.3	2.7	1.7	0.5	1.7	▲ 0.1	0.9

(出所)経済産業省「商業販売統計」

○小売業販売額は前年比+2.3%

経済産業省から発表された9月の小売業販売額は、前年比+2.3%（コンセンサス：同+0.8%、レンジ：同▲1.0%～+1.7%）とコンセンサスを上回る結果になった。季節調整値でも、前月比+2.7%と2ヶ月連続で増加し、伸び幅も大きい。また、物価上昇の影響を除いた実質小売業販売額（実質化、季節調整は当社）でも、前月比+1.4%と2ヶ月連続の増加だ。9月小売業販売額は良好な結果となった。

業種別（季節調整値）に見ると、9月前半に気温が低かったことを背景に秋冬物需要が堅調だった「織物・衣服・身の回り品小売業」（前月比+7.4%）と「飲食料品小売業」（同+1.8%）が9月の小売業販売額を牽引した。また、もたつきが見られていた「自動車小売業」が同+3.7%と9月は比較的大きな増加となったほか、「機械器具小売業」が同+3.2%、百貨店を含む「各種商品小売業」が同+0.8%など、全ての業種で前月比プラスとなった。

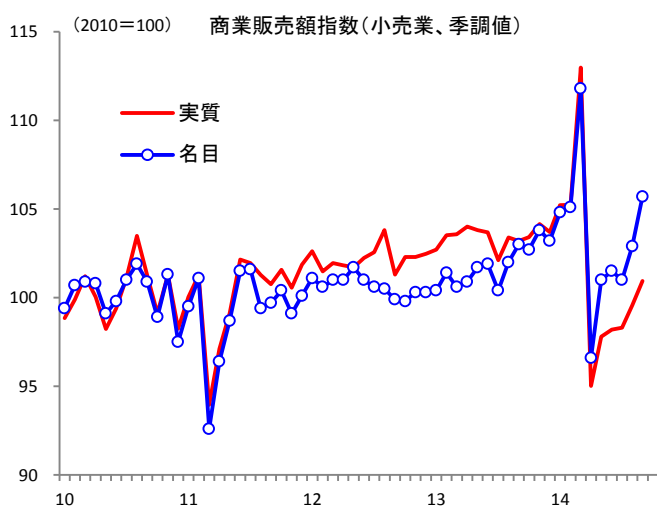
ただし、商業販売額は名目値であり、「飲食料品小売業」の増加には生鮮食品の値上がりによる面も含まれている¹。「消費税率引き上げ後の消費動向等について」（内閣府）をみると、飲食料品（除く生鮮食品）販売金額（スーパー）の9月実績は、増税以降の前年比マイナス幅と同程度に留まっている。また、「織物・衣服・身の回り品小売業」は7、8月に天候不順による押し下げがあった反動の面があることや9月は気温の低下や良好な天候によって押し上げられている面があることから、高めに出ている可能性がある点には注意が必要だ。9月小売業販売額は単月としては強い結果だが、消費の基調については来月以降の動向も併せてみる必要があるだろう。

¹ 9月東京都都区消費者物価指数をみると、食料が前月比+1.6%、生鮮食品が同+9.2%。

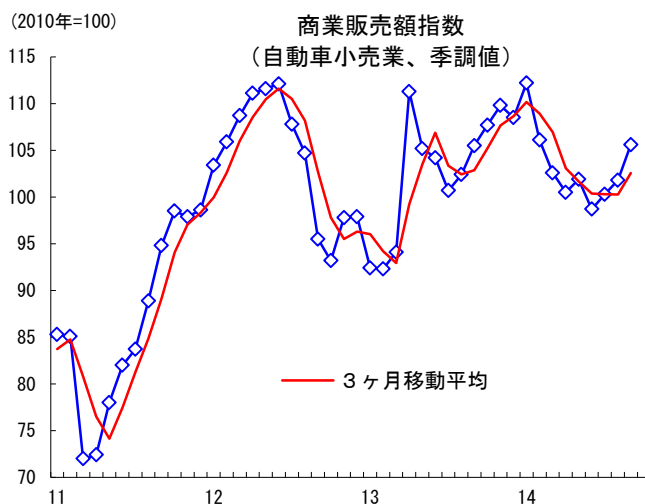
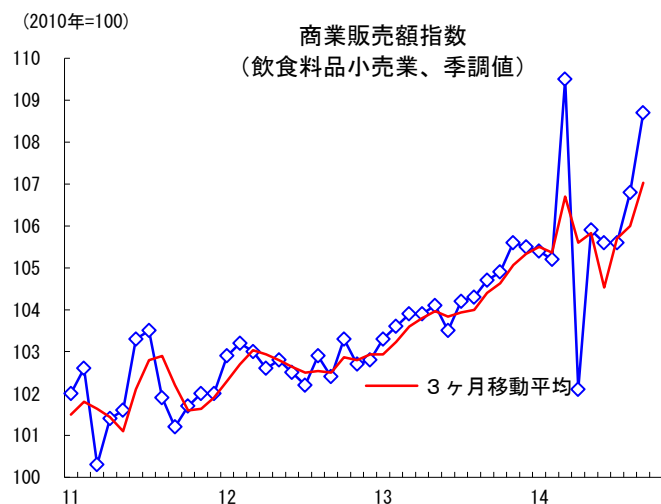
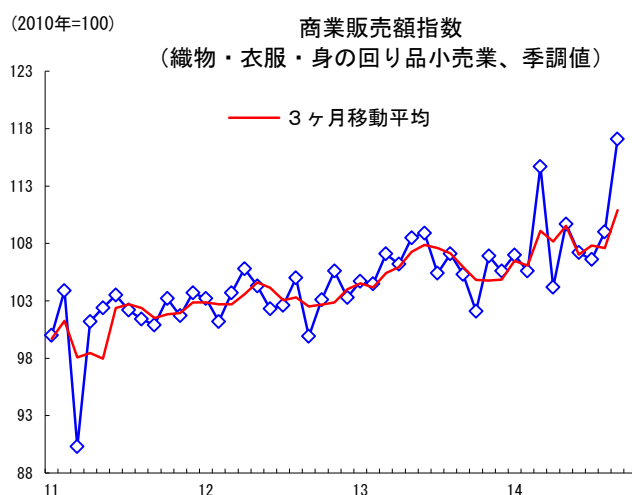
○先行きは緩やかに増加の可能性大

以上のように、9月の小売業販売額は明確に増加し、内容としても幅広い項目で改善がみられるなど良好な内容だった。均してみれば、個人消費は緩やかに改善しているとみられる。もっとも、7－9月期でみれば、小売業販売額は前期比＋3.5%（4－6月期：同▲7.0%）、実質小売業販売額は同＋2.7%（4－6月期：同▲10.0%）と、4－6月期の落ち込みに対して戻りは限定的なものに留まっていることには注意が必要だ。

先行きの個人消費は、雇用・賃金の改善を背景に緩やかに改善するとみている。足元の雇用環境は、求人の増加に頭打ち感が始めているものの、依然企業の雇用不足感は強いとみられ、労働需給が逼迫した状態が続いている。賃金についても、8月毎月勤労統計確報では現金給与総額、賃金の大部分を占める所定内給与の増加が続いている。今後も前述した労働需給の逼迫が賃金上昇の追い風になるとともに、冬のボーナスの増加も期待できよう。もっとも、足元の賃金改善は物価上昇による負担増を吸収するまでには至っておらず、消費の回復ペースは抑制されたものになるだろう。



(注) 実質小売業販売額指数の実質化、季節調整は第一生命経済研究所



(出所) 経済産業省「商業販売統計」